



1156 5年 Aさん「ムラサキエンドウマメの秘密」4/3

おばあちゃんの家に行く^{にわ}と庭にむらさき色のエンドウマメがなっていました。

ぼく「あれ？このエンドウマメのさやはむらさき色だ。病気^{びょうき}にでもなったのかな？」

妹「本当だね。エンドウマメは緑色^{みどりいろ}だよ。」

祖母^{そぼ}「はっはっは。それは病気^{びょうき}じゃないよ。ムラサキエンドウマメだよ。」

ぼく・妹「むらさきのエンドウマメ？そういえば花の色もむらさき色だね。」

祖母^{そぼ}「あなたたちを驚^{おどろ}かせようと思って育て^{そだ}てみたの。古代エジプト王家のお墓^{こだい}の中から発見^{はか}された神秘^{みつげん}とロマンのエンドウマメだよ。」

ぼく「さやはむらさき色だけど、中の豆は何色なのかな？」

妹「さやもむらさき色だし、中のマメの色もむらさき色じゃない？」

ぼく「中のマメは緑色^{みどりいろ}だと思う。」

祖母^{そぼ}「何でそう思う？」

ぼく「今までいろんな種^{たね}や実^みを観察^{かんさつ}してきて、外側^{そとがわ}と中身^{なかみ}は色が違う^{ちが}ことが多かったから。それにエンドウマメはやっぱり緑色^{みどりいろ}だよ。その方がおいしそう。」

祖母^{そぼ}「じゃあ、さやを開^{ひら}いて確か^{たし}めてみよう。」

祖母^{そぼ}「正解^{せいがい}は・・・ジャン。中のマメの色は緑色^{みどりいろ}でした。」

ぼく「本当だ。中は緑色^{みどりいろ}だね。でも完全に全部^{かんぜん}緑色^{ぜんぶ}ではなくて、さやと豆^{まめ}がつながっているところはむらさき色^{むらさきいろ}をしているね。」

祖母^{そぼ}「よく気が付いたね。ムラサキエンドウマメでご飯^{はん}を炊^たいて一晩^{ひとばん}保温^{ほおん}しておくと、ご飯^{はん}がむらさき色になるらしいよ。」

ぼく・妹「すごい！ムラサキエンドウマメで炊^たいたご飯^{はん}、見てみたい！食べてみたい！

祖母^{そぼ}「暖^{あたた}かくなって、マメがたくさんできたらいっしょに収穫^{しゅうかく}してご飯^{はん}を炊^たいてみよう。」

ぼく「ものすごく楽しみだなあ。」

祖母^{そぼ}「おばあちゃんも楽しみ。」

ぼく「ムラサキエンドウマメって花の色もさやの色も、野原^さに咲^さいているカラスノエンドウに似^にてない？仲間^{なかま}なのかな？気^きになるから調^{しら}べてみるよ。」



調べてみるとびっくり！カラスノエンドウはソラマメの仲間^{なかま}でした。ヤハズエンドウマメ科ソラマメ属^{ぞく}の植物^{しよくぶつ}。

花の色^{じゆく}や熟^{じゆく}すとさやの色が黒^{くろ}っぽくなるので、ムラサキエンドウマメの仲間^{なかま}だと予想^よしましたが、全^まく違^{ちが}っていません。新^{あたら}しい発見^{みつげん}ができてとてもうれしかったです。

★ 紫色^{むらさきいろ}のご飯^{はん}、私も食べてみたいです。

